



お ぎ づ たい も 雄 次 曇 (新国会)

公立碓氷病院の運営・都市計画道路について

運営の推移について

問 医療損失、患者数の5年間の推移については。

答 合併以降10年間赤字運営です。過去5年間は、6億円前後の赤字で推移し、患者数は平成26年度の約10・5万人、30年度は8・3万人と毎年減少しています。

問 改革の成果と今後の見通しは。

答 あり方検討委員会を組織して病棟再編や訪問診療の開始、医療報酬の加算を実施しましたが、医師不足により損失は拡大しています。今後も大きな改善は難しいので、抜本的な見直しについてはできる限り早急に方向性を示すよう努力していきます。

問 都市計画道路の全容と策定年度、進捗状態は、どのようになっているのか。

答 昭和38年より16路線が策定され、整備済みが2路線、整備中が3路線、一部未整備が6路線、全線未整備が5路線です。

問 今後、時代に合わせた見直しや計画廃止の考えは。

答 都市計画道路の多くは高度経済成長時代に策定されたので、今後の人口減少、高齢化社会を迎える中、安中市の将来の都市像、方向性を整理し、道路の必要性や交通需要を検証し実施します。

問 泉が碓氷川圏域河川整備計画を出したがる市の関わりはどうか。

答 碓氷川と九十九川合流部の堤防かさ上げ等の地元説明会出席し内容の把握に努めています。

問 災害対応ガイドブックについて

答 新たな発行時期はどうか。

答 県が公表した碓氷川の浸水想定区域や県管理河川の水害リスク想

問 5段階の警戒レベルを用いた避難情報の発令に変わるが、市民へどのように伝えるのか。

答 警戒レベルと避難勧告等の避難情報を併せて発令します。



お が わ つよし 小 川 剛 (清風クラブ)

防災対策・交通安全対策について

災害時の情報伝達について

問 5段階の警戒レベルを用いた避難情報の発令に変わるが、市民へどのように伝えるのか。

答 警戒レベルと避難勧告等の避難情報を併せて発令します。

問 河川の整備計画について

答 緊急対策として洪水を一時的にためる調整池の設置と流路工の整備を計画しています。

問 泉が碓氷川圏域河川整備計画を出したがる市の関わりはどうか。

答 碓氷川と九十九川合流部の堤防かさ上げ等の地元説明会出席し内容の把握に努めています。

問 災害対応ガイドブックについて

答 新たな発行時期はどうか。

答 県が公表した碓氷川の浸水想定区域や県管理河川の水害リスク想

定マップを検討し、来年度には改定したいと考えます。

防災行政無線について

問 聞き取りづらく希望するお宅に、個別受信機の貸し出しや新たな設備の導入はどうか。

答 維持管理や保守点検を最優先に防災ラジオや代替手段の研究も進めます。

交通安全対策について

問 滋賀県大津市の事故を受けた本市の対応や安全対策はどうか。

答 ガードレールやポール等の設置が考えられますが、通学路危険箇所合同点検により関係機関で協議検討を進めます。



改革が望まれる碓氷病院



内閣府発行

「防災情報の伝え方が変わります」

● 5段階の警戒レベル…昨年の西日本豪雨の教訓から、逃げ遅れる方をゼロにするため、内閣府では水害・土砂災害の防災情報の伝え方を5段階の危険度レベルで発令するよう改定しました。